

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.18〉

〈吉部② 課題とキーマン〉

世代超えた価値観の共有を目指す

交流人口増へ 観光資源整備

を振る舞っている。野村ストクラブ(徳永博会長)会長は「世代を超えた価値観の共有が不可欠。認め合つ、協力し合つ、助け合つ、信じ合つ、四つを大切にしていきたい」と言う。

課題解決のため2009年3月に夢プランを策定。「人でにぎわう夢」「地域資源から生まれる夢」「健やかな「吉部っ子」を育てる夢」「将来を見据えた夢」の四つを柱としている。

吉部文化推進会(大田 壮助代表)は生い茂る竹や雑草で踏み入ることができなかつた旧船木鉄道の鉄道敷跡や大棚トンネルを整備。観光客の受け入れ体制も整えて、人気の観光地となりつつある。

中山間地域であるため、公共交通機関が十分で、通学や医療機関への受診に必要な移動手段の確保も課題として挙げられる。地域における高齢者の見守り体制の在り方も検討する必要がある。

同協議会は、子どもの第三の居場所づくりを確保し、吉部地区の伝統や文化の継承、3世代の交流を目的とする子ども食堂を昨年7月に立ち上げた。児童や地域住民に地元野菜などで作った弁当



自然に囲まれた大棚トンネル

吉部地区の人口は市内で最も少ない713人。ここ5年間で約100人も減少しており、約2人に1人が高齢者というのが現状だ。後期高齢者(75歳以上)の割合も増えてきている。今後ますますに少子高齢化が進むと推測されるため、同地区コミュニティ推進協議会(野村清風会長)はさまざまな団体と連携し、高齢化対策や交流人口の増加に向けた取り組みを進めている。